

木

KINO PRESS
NO.47

野

京都精華大学
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

通

木野通信 第47号
2009年1月20日発行
京都精華大学広報部広報課
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197

カレーライスと文化の技法

学長◎ 島本 淳 SHIMAMOTO Kan

ぼくの授業（西洋美術史）をとった学生たちから、「カレーライス好き」の人間だと思われるらしい。食堂で他のメニューを食べていると、「今日はカレーではないのですか」とよく声をかけられるし、ある時などテストの最後に自家製カレーをもってきた学生もいた。こんなことになるのは、授業中に、美術史というものの論理の比喩として「カレーライス」について比較芸術論的蘊蓄を傾けるためかもしれない。もちろん、カレーを好きではある。とくに、精華の食堂のカレーは、大さじ三杯のウイスターソースを入れるとかなり美味しい。

こんなカレーグルメについて話すことはやまほどあるのだが、それ以上に興味があるのが「日本のカレー」の辿ってきた歴史の変遷である。そこには文化や芸術での表現のヒントがふんだんにちりばめられているからである。カレーの歴史と現在は、日本の芸術文化の技法へのヒントを与えてくれるのだ。

ぼくは外国に滞在するときかならず固形のカレールーをもっていき、自分が食べるためではなく、外国人とのディナーでメインディツ

シュにするためである。誰もが美味しい！と感歎の声をあげてくれる。それほどに日本のカレーライスは評価が高いのだ。それは日本のカレーに「本物」の観念がないからだと思う。

日本のカレーは初めから皮肉な運命を抱えていた。幕末、日本人が最初に会ったカレーがインド・カレーだったというのに、日本のカレーはイギリス経由でもたらされた。明治のことである。日本のカレーは本場のリメイクから始まったのだ。それ以降の日本のカレーの発展をみていると、この出発点の捻れはきわめて重要なことのように思える。

イギリス経由で入ってきたため、カレーは長く洋食の部類に入れられてきた。といっても、これは洋画や洋楽のように本当の「洋」ではない。あくまで西洋化された「洋」だからである。

ただし、日本のカレーにはもうひとつ、異国趣味（エキゾチズム）が入っている。それが19世紀イギリスのオリエンタリズムに由来するのか、カレーというミックススパイスのもつ原産地の香りの直輸入な



「ひととき」林 千花子
(陶芸コース 204C023)

信

のかわからないが、ともかく、日本のカレーは最初から無国籍な乱雑さをもっていたということである。「本物」という固定観念をもたない日本のカレーは、現在の自分を見本として変化していかざるをえない自己成長的な食物なのだ。そして、この自己成長は第二次大戦後の高度成長期に急速な飛躍をとげる。ライスカレーからカレーライスへ、洋食から国民食へ、そして、カレーライス自体も進化し続ける。

こうした日本のカレーの近代史、というより日本のカレーが近代そのものののだが、その歩みは、西洋に縛られがちな近代日本の芸術文化の技法に示唆するものがあるのではないか。現在の日本のカレーは何でもトッピングでき、そのうえ美味しいものとなっている。目の前にあるコロッケと唐揚げをトッピングしたカレーライスもそうだ。トッピングという他者を包み込み総合しているのである。他者を受け入れ包み込むこと。そもそも日本の精神風土はそうしたものでなかったのか。だいいちカレー自体が他者だったのだ。

大学創立40周年事業レポート

1968年（昭和43年）、「自由自治・国際主義・人間形成・凝集教育」を教育理念に掲げ、洛北の地に開学した京都精華大学。自律的に学び自らを表現することを教育実践の核に据え、

「表現の大学」として常に先進的に時代を歩んできた。創立から40年という節目にあたる2008年度、「世界を変革する表現」をコンセプトに記

念事業を展開している。世界を揺るがす作品を生み出してきたアーティストや思想家を招聘し、さまざまなかたちで京都精華大学とコラボレートした一連の記念事業をレポートする。

映画上映会 「THEATER ASSEMBLY」

「アセンブリーアワー講演会」に訪れたゲスト講師の映画・映像作品の映画上映会。大島渚氏や寺山修司氏の作品のほか、山下敦弘氏や河瀬直美氏らの監督自選作も上映され、多くの学生が足を運んだ。



NY ADC&TDC展

長年にわたり世界のデザイン・広告界をリードしている、ふたつの展覧会を京都に招致。関連イベントとして、書体デザイナー小林章氏ら



MASTERCRAFT LOMBARDIA Exhibition

マスタークラフト・ロンバルディア
ロンバルディア州 職人工芸の挑戦

イタリア・ロンバルディア州の職人工芸企業との共同プロジェクト。本学学生アイデアをロンバルディア州で活躍する熟練の職人たちが具現化した、テーブルウェアなどのプロトタイプやプロダクトを展示。



【日程】11月22日～12月21日
【会場】東京 Shiodome Taia クリエイティブ・センター

折元立身 “Living Together is Art”

アーティスト・折元立身氏によるパフォーマンスと講演会、ワークショップ。キャンパスにパン人間とアルパカが出現。講演会やワークショップには多くの学生が参加し「なぜ表現するのか」「アートとは何か」というメッセージを、体験を通じて受け取った。

◎パフォーマンス
「パン人間とアルパカがセイカにやってくる」

【日時】12月5日 11時30分～15時

【場所】キャンパス内

◎講演会

【日時】12月5日

18時～19時30分

【会場】黎明館

◎パフォーマンス
&ワークショップ

「みんなの輪」

【日時】12月6日

10時～13時

【会場】悠々館前広場



YOKO ONO LECTURE&PERFORMANCE 「Passages for Light」

オノ・ヨーコ氏が歩いた後に学生が花をまくパフォーマンス「フラワーロード」の後、レクチャーでは学生との対話を行った。オノ氏は、クリエイティブなことが世界を明るくする、自分が大きな力を持っていることを信じてほしいと語り、学生らはそのメッセージに聞き入った。

【日程】12月10日

【会場】天ヶ池周辺、黎明館ほか



のトークショーも開催された。

【NYADC (ニューヨークアートディレクターズクラブ) 展】

【日程】 9月6日～28日

【会場】 COCON烏丸「shinbi」ギャラリー

【NYTDC (ニューヨークタイプディレクターズクラブ) 展】

【日程】 10月10日～16日

【会場】 COCON烏丸1Fアトリウム

大運動会

学生、教員、職員が一堂に会した運動会を実施。

【日時】 10月19日 10時～15時

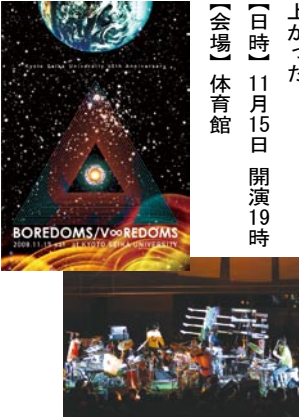
【場所】 グラウンド

BOREDOMS (V∞REDOMS) ライブ

国内外で常に斬新な音楽活動を精力的に展開する『ボアダムス』のコンサートを開催。コアメンバーのyoshimiさんは本学テキスタイル分野の卒業生。コンサートホールとなった体育館はおおいに盛り上がった。

【日時】 11月15日 開演19時

【会場】 体育館



1968+40 モードメイクアップ
shu nemura / 京都精華大学



メイクアップの世界に革命を起こしたといわれるシュウウエムラとの共同展示会を建仁寺で実施。学生が制作したフェイスマスクも展示された。29日のトークイベントにも多くの人が足を運び、「美」に関わるものづくりの世界が語られた。

【日程】 11月22日～30日

【会場】 建仁寺 禅居庵 (東山区)

◎トークイベント「美を創る」

【日時】 11月29日 17時～18時30分



京都オペール デザインコンペティション

（榊セラが開発した「京都オペール」を使用した装身具等のデザインコンペを実施。プロタイプを「京セラ美術館」で展示した。8日には表彰式も行われた。

【会期】 12月8日～19日

【会場】 京セラ美術館 (伏見区)



今後の予定

◎人文学部奨学生制度の拡充

2009年度、3学科から1学科5コース制への改組を機に、人文学部の奨学金制度を拡充。返還義務のない給付タイプの奨学金で、成績優秀者に4年間の授業料の約9割（特別奨学生）または半額（給付奨学生）を給付

◎「京都精華大学40年史」の発行

1968年からの40年を「年表編」と「資料編」により構成。冊子・CD・R・抜粋版冊子の3種を発行予定

【発行】 2009年3月31日

【仕様】 A5判 360ページ程度

◎対談企画：吉本隆明×笠原芳光

評論家 吉本隆明氏と名誉教授の笠原芳光先生による対談を映像収録（映像の配布方法・時期等は未定）

◎新本館建設事業

老朽化していたキャンパス最古の建物「本館」を40周年事業で建て替え。新しい本館には、最新の語学学習施設の他、事務局機能を集約

【竣工予定】 2009年3月

◎「40周年記念式典」

創立40周年を祝う記念式典および祝賀パーティーを新しい本館の竣工披露を兼ねて開催。卒業生によるホームカミングイベントも開催予定

【日程】 2009年4月12日

【会場】 新本館

NEWS

京都大学との連携協定を締結

京大広報誌をマンガ学部生・卒業生らが制作

9月17日、京都精華大学と京都大学との連携協力に関する基本協定書に、島本流学長と尾池和夫京都大学総長（当時）が調印を取り交わした。連携協定のなかには、学生同士の交流や広報活動の強化が盛り込まれている。

協定のきっかけになったのは、京大からのマンガ制作依頼。iPS細胞など、京大には世界的に高い評価を受けている研究や実績があるにもかかわらず、その研究内容を一般の人々にわかりやすく伝えることに苦勞していた。そこで尾池総長が注目したのが、マンガの力。マンガでの京大広報誌が、つれないかと本学に相談が舞い込んだ。

広報誌の制作には、両大学の学生21人が携わり、京大の学生が研究室への取材を担当し、本学の学生がストーリー、作画を担当。両学生が協力し合い作り上げた。

協定にあたり尾池総長は「他の大学との連携に見ない特徴として、大学広報に関する提携が含まれている。京都精華大学がもつ芸術系分野に期待している」と述べた。

また、島本学長は、「表現とは、世界に伝えていく武器。精華は新しいコミュニケーションの核になりたいと常々考えている。マンガは、どの世代でも理



解しやすい表現。大学には、大学の活動や研究を広く知らしめていく責務があると考えている」と語った。

京都大学の会議室で行われた合同記者会見には、制作に当たった学生らも同席し、記者からの取材に堂々と答えていた。冊子は1万部発行。非売品。近畿を中心とした公立・私立高校へ配られている。



NEWS

マンガ制作依頼が増加

ロコミで依頼が拡大

本学へのマンガ制作依頼が増加している。かねてから依頼は多かったが、リピーターや、評判を聞いた企業から新たに依頼を受けるケースが増えてきた。

依頼主は、官公庁から一般企業までさまざま。最近では、堀場製作所から依頼された。創業者の生涯を伝えるマンガ本がある。もととは京都市から依頼された、京都の偉人たちを紹介するマンガ本のなかで、堀場製作所の創業者を取り上げたのがきっかけ。国内の従業員はもちろん、外国人従業員にも創業者のものづくり魂を伝えたいとの意向から、今回は日本語版・英語版がつけられた。

また、薬物依存症リハビリ施設「ダルク」の啓発マンガ、関西経済連合会の取り組みを

伝えるマンガなど、社会的意義の高い内容のものも多い。これらの制作にはストーリーマンガ、カートゥーン、ビジュアルデザインなどの卒業生が中心となって携わっている。

制作依頼の窓口・進行管理を担う事業推進室では、「卒業後もマンガや絵を描き続けている卒業生を起用していきたい。社会人としてのコミュニケーションなど、事業推進室の仕事を通じて学んでもらえれば」としている。



NEWS

京都国際マンガミュージアム、入館者50万人を突破

外国の旅行ガイドブック、国際マンガサミットの影響で

2006年11月25日のオープンから、ちょうど2年になる昨年11月25日、京都国際マンガミュージアムの入館者数が50万人を突破した。記念すべき50万人目の入館者には養老孟司館長の直筆サイン色紙や、記念品の贈呈が行われた。

同館は開館以来、知名度が拡大。海外のガイドブックや旅行雑誌にも掲載されており、

海外からの観光客数が増加した。とくにフランスからの入館者は2千人を越えている。

また、「少女マンガパワー」「フランス語圏のマンガバンド・デシネの歴史と展開」などのユニークな企画展や、9月に行われた国際マンガサミットの盛り上がりも、入館者の伸びに一役買った。



NEWS

天理市のISO14001取得をサポート

本学人文学部と市の官学協同事業が実る

本学と官学共同で環境マネジメントシステム構築に取り組んできた天理市が、この度、環境管理の国際規格である「ISO14001」を取得した。

この取り組みは2007年7月から、人文学部環境社会学科4年生、服部静枝ゼミの堀田紘佑さんが環境改善の数値目標づくりなどをサポートし、進められてきた。11月26日に行われた授与式では、天理市から人文学部長の鷲尾圭司先生に感謝状が贈られた。



NEWS

アセンブリー講演会

内田樹氏×釈徹宗氏、鈴木康広氏ら話題のゲストが続々

各界の第一線で活躍するゲストを迎え、文化、芸術、社会などの幅広いジャンルのテーマで開催している「アセンブリーアワー講演会」。前期に続き、後期もさまざまなジャンルの豪華な顔ぶれが揃った。



「『呪い』と『祝い』」という興味深いテーマで対談を行ったのは、現代フランス思想を専門とする

内田樹氏と宗教学者の釈徹宗氏。なぜネットの書き込みで自殺にまで追い込まれるのかという問いを、「呪い」という見解から切り込み、同じコミュニケーションで効力を発揮する「呪い」を防御していく必要性を説いた。



NEWS

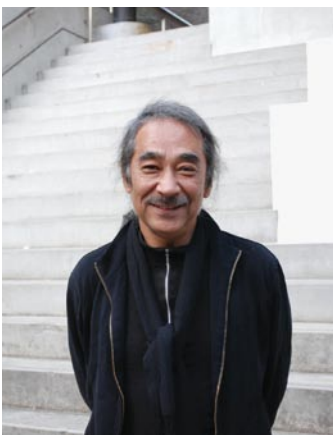
建築・新井清一先生がロシアの文化勲章を受章

日本人では初めての偉業

デザイン学部建築学科の新井清一先生が、9月27日、ロシア・バシコルトスタン共和国の文化勲章「Salavat Yulayev Award2008」を受章した。この賞は、芸術、文化への功労賞。音楽家や芸術家など、文化的活動を通してロシアに貢献した者に授与される。

受賞の対象となったのは、新井先生が手がけている、バジコルトスタン共和国にあるウファ市を町ごとデザインする取り組み。現在もこのプロジェクトは進行中で、国際会議場や競馬場が建つなど、着々と新しい町がカタチになっている。新井先生は、「賞もうれしい

が、自分が絵に描いたものがカタチになり、実際に使ってもらえるのが一番の喜び」と語っている。



また、現代アーティストの鈴木康広氏の講演は、視覚的刺激に満ちたものとなった。テーマは、「まばたきに」ご注意ください」。意図的にも無自覚にもできる「まばたき」を通じて、「見る」ということに興味があるという鈴木氏は、パラパラマンガを使った作品や、夜の公園で動いていない遊具（グローブジャングル）に、昼間に撮った、同じ遊具で遊んでいる子どもたちの映像を映し出すインスタレーションなどで知られている。その作品映像はもちろん、その作品ができあがるまでの思考の移り変わりがイラストスケッチでアニメーションのように紹介された。視覚的な講演に、学生らは釘付けになっていた。

そのほか、チベットの問題を映し出した話題作「チベット・チベット」の映画監督、キム・スヨン氏や、ダンスカンパニー「輝く未来」の主宰で、振付師である伊藤キム氏らも来学。映画上映会や、からだをつかったワークショップなどと組み合わせたプログラムになっており、参加した学生はじめ一般の方々にとって、彼らのメッセージを、からだで感じられる機会となった。

新しい役員体制が決定 赤坂博氏が新理事長に

学校法人京都精華大学の理事および評議員の任期満了にともない、次期理事および評議員が選出された。任期は2008年12月25日から2011年12月24日まで。また、12月25日に開催された学園理事会で、前理事長の片桐充（中尾ハジメ）氏に替わり、赤坂博氏が新しい理事長に選出された。

新理事長に選出された赤坂氏は京都精華大学（当時は京都精華短期大学）の第1期生。1968年4月、美術科・絵画コースに入学し、学籍番号は1番だった（50音順）。京都精華大学のスタート時に学生として関わり、卒業後は㈱タカラブネを経て、1997年7月京都精華大学に転職（就職課職員）。大学創立40周年の記念の今年、理事長に就任した。



【理事】
理事長——赤坂博（職員）
学長——島本 浣（芸術学部教授）

【専務理事】
上々手良夫（職員）

【常務理事】
葉山 勉（デザイン学部教授）
石田 涼（職員）

【理事】
杉本 貞彦（宝ホールディングス㈱参与）
佐藤 茂雄（京阪電気鉄道㈱代表取締役CEO）
尾池 和夫（前京都大学総長）
安村 幸駿（京都銀行特別顧問）

【監事】
崎間 昌一郎（弁護士）
位ノ花 俊明
堂山 道生

1968年4月に私が入学した京都精華短期大学は、美術科、英語英文学科の2学科を合わせて約2百数名の初年度入学生でスタートしました。
今年度は開学40周年を迎えています。岡本清一初代学長の「自由自治」「人間形成」「凝縮教育」「国際主義」という理念を堅持し、学生との密接なかわりを保つ教育を実践する大学として評価をいただき、4100名を超える学生数が在籍する大学に成長しました。
しかし、今、大学のおかれている環境は非常に厳しく、京都精華大学が輝く大学として支持され発展を続けていくためには人材を育成する高等教育機関として大学の果たすべき指名を明確にし、大学の理念をより鮮明にした教育への改善、改革はもとより大学運営の組織改革が急務となっています。

大学発展のための皆様のご理解とご支援をお願いいたします。
理事長 赤坂博

活躍する卒業生

「らくたび文庫」をご存知だろうか？ 京都にお住まいの方は、書店で平積みされているのを見たことがあるはず。ポケットに収まる文庫サイズ、500円という手頃な値段、そして、「京の庭NAVI」「京のお豆腐」「京都穴BAR」など、こだわりの視点とコンセプトで人気の京都案内本。2009年1月現在35冊が発行されている。人文学部の卒業生、光川貴浩さんは、その「らくたび文庫」の編集部で働いている編集スタッフ。らくたび文庫シリーズを中心に、書籍の企画・編集を手がける。たくさんの人と関わりながら本を創る、編集という仕事に大きなやりがいを感じているという。

光川さんは、大学2年のとき『編集技法』の授業で雑誌制作を体験し、その講師の編集プロダクションでアルバイトを始めたことがきっかけで今の仕事に就いた。「大学は本当に楽しかったですね。アルバイトも楽しかったけど、自転車部にも入っていたし、講義もおもしろかったです」と充実していた学生時代を振り返る。

「今でも役に立っているのは、レポートやレジメの書き方を細かく指導されたことです。ぼくは『スポーツと日本の近代』が研究テーマで、栗奥先生のゼミだったんですが、ものすごく厳しかった（笑）。読む人を念頭に置いて情報を整理し、興味を持ってもらえるように工夫することが大切だと教えられました。レポートと本の編集は似ているんです」と語る。「編集の仕事は企画からスタートします。らくたび文庫の場合は、88ページで



この小さな判型、と条件が限定されているからこそ、どう展開させるか考えるのがおもしろい。ゼロから企画を立てるのも、決まっているテーマをふくらませていくのも、どちらも楽しいですね。また、全体に目を配って調整をしながら進行するのも、編集者の役割だ。「デザイナー、カメラマン、ライター、取材先の人々、一冊の本に関わるすべての人に楽しんでもらいたいと思っています。あとはもちろん何よりも読者に楽しんでもらいたい」。編集の仕事は始めて4年目の光川さんは、やりたいこと、覚えたいこと、いっばいだと目を輝かせた。「紙や印刷の知識など、書籍や雑誌のハード面のことももっと勉強して、自分らしいテーマで一冊でも多くのヒット本を作りたい」。



「らくたび文庫」は“京都をもっとディープに楽しむための文庫判ビジュアルガイドブック”として2007年3月に創刊された。

人文学部 2006年度卒業 らくたび文庫編集部 光川貴浩さん



客員教授による 特別講義

8/9 中野晴行先生

マンガ学部客員教授

マンガ編集者、ノンフィクションライターである中野先生。アメリカ・ドイツ・フランスなど世界各国で日本のマンガがどのように受け入れられているか、なぜ人気なのかを講義。また、これからのマンガ市場やケータイマンガというコンテンツ産業の展望を語った。



9/9 村上もとか先生

マンガ学科客員教授

『ゴジラ』で有名なマンガ家、村上もとか先生の授業を受講するには、期日までにネームを提出するという条件付き。にもかかわらず、多くの学生が提出し、受講した。苦手なフォルムを実際に先生が描いて説明するなど、「わかりやすい」と学生らに大好評だった。



9/19 安井清先生

建築学科客員教授

代々、西ノ丘の棟梁の家系である安井家。氏は棟梁として、桂離宮をはじめとする国宝如庵など国宝級の伝統建築の修復を数多く手がけてきた。その経験談をまじえながら、「京都は千年前の建築が学べる土地。本物を見て学ぶことが大切です」と語りかけた。



10/25 黒須美彦先生

デザイン学部客員教授

資生堂「スーパーマイルド」、富士フィルム「写ルンです」、シャープ「VAOUS」など、先生がこれまで手がけてきたCMを紹介しながら、企画の考え方、伝え方、映像とことばの合わせ方などを解説。貴重な制作現場の話に、学生たちは真剣な眼差しで聞き入っていた。



11/19 松本俊夫先生

メディア造形学科客員教授

前衛的な映像作品を手がけてきた氏は、数々の実験映像を流しながら、その撮影技術をひとつずつ解説。フィルムを紫外線で感光させた作品など、視覚を混乱させるような作品群の根底には、「人間が普段見ることのできないものを与える」という自身が目指すテーマがあることを語った。



11/27 吳智英先生

マンガ学部客員教授

マンガ評論家である吳先生の授業では、コマに読む順番がふられた1960年代のマンガや、新しい表現方法が現われた節目の作品など、貴重な資料の数々を紹介。読者とマンガ家のかけひきを読み解き、マンガの表現の変化について、熱のこもった講義が繰り広げられた。



■こんなゲストも

客員教授以外にも、著名なゲスト講師が数多く来学している。

ビジュアルデザイン学科では、アーティストの淀川テック氏、のびアニキ氏、画家の高木さえこ氏、音楽家の高木正勝氏が教壇に立った。さらに、アートディレクターの宮師雄一氏や、ゲームデザイナー・編集者の伊藤ガビン氏、大手企業の宣伝部などさまざまな顔ぶれが訪れた。

アニメーションコースでは、「科学忍者隊ガッチャマン」の作画監督やデイズニアニメでキャラクターの作画をしていた宮本貞雄氏が開講。人文学部では、「日本語リテラシー」の授業で、社会学者の宮台真司氏と橋爪大三郎氏がそれぞれ講演を行ったほか、世界的なJAZZ演奏者を招いた特別授業も開かれた。

また、デジタルクリエイションコースの学生と情報館と著名なアーティストらがコラボしてイベントをつくる企画などもあり、業界のプロに触れられる環境を活かした活動が増えている。



授業が終わった後も絵コンテを見せながら学生の質問に答える宮本氏

本学は、第一線で活躍するマンガ家や編集者、作家など多彩な客員教授を迎えている。プロフェッショナルの生の声に大きな刺激を受け、学生らは自分だけの表現を探っている。ここに、2008年度後期に行われた客員教授の授業の一部を紹介したい。

大学ブログ「seika-sekai」 毎日更新中

京都精華大学ブログ「seika-sekai」が昨秋にスタートしました。日常のキャンパスの様子をレポートしています。大学Webサイトのトップページからリンクされていますので、ぜひご覧下さい。
また、コースごとのWebサイトやブログも、各学部トップページからリンクされています。各コースそれぞれの特徴がよく分かる内容になっています。ぜひ一度ご覧下さい。



<http://seika-sekai.jp>

2008年度芸術学部 卒業・修了制作展

芸術学部と芸術研究科による卒業・修了制作展を、京都市左京区の岡崎公園内にある、京都市美術館にて開催いたします。学生たちが、学びの集大成である卒業制作を発表します。ぜひお立ち寄りください。

京都精華大学 卒業・修了制作展'08
会期 1月28日(水)～2月1日(日)
会場 京都市美術館本館
※市バス「京都美術館美術館前」下車すぐ。
または地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩10分。



本館建替工事に関して



本館の老朽化による建替工事により、事務局が3月まで対峰館1階および明窓館に移転しています。郵送先・電話番号・FAX番号・E-mail等に変更はありませんが、ご訪問の際にはご注意ください。皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。なお、新しい本館は3月竣工の予定です。

卒業式・入学式のご案内

2008年度学位記授与式

日時：3月20日(金・春分の日)

9時30分開場／10時開式

場所：本学体育館

※地下鉄「国際会館駅」よりスクールバスを運行します。お車でのご来場はご遠慮ください。

2009年度入学式

日時：4月1日(水)

9時開場／10時30分開式

場所：国立京都国際会館イベントホール

※地下鉄「国際会館駅」から徒歩5分。
お車でのご来場はご遠慮ください。



創立40周年記念事業に関する募金のお願い

今年度、創立40周年を迎えた京都精華大学。さまざまな周年記念事業のイベントや出版物を計画・実施しています。卒業生や在学生、教職員はもちろん本学に関わるすべての人々の記憶に残るものと考えています。つきましては、今後10年、20年と続く展望を込め、ご寄付のご協力をお願いしています。寄付金は一口一万円からとなっています。詳細に関しては「募金要項」をお取り寄せください。この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。詳細のお問合せや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室(075-702-5201)までお願いいたします。